

【未来へ繋ぐバトン—今できることを】

松戸市立小金南中学校 三年 森實 亜利彩

「早く起きなさい、早く、学校に間に合わないわよ。」
またかあ。姉が体調不良になって以来、毎朝母のこの声で私は起こされる。

「水分を摂らなきゃダメよ。はい、白湯。」
姉へ向けられた母のこのおきまりの言葉も、私を不機嫌にさせる。聞けば、姉の体調不良は自律神経のせいらしく、この神経のバランスを整え、血液循環を良好に保つためにも、一日千五百ml〜二千mlの水分が必要らしい。数日前にテレビで暑熱順化ができないと、汗を上手にかけず熱中症になる、と聞いていた。そのためにもこまめな水分補給は体にとって大事なのだそう。調べてみると、人間の身体は体重の約六十パーセントが水分で出来ており、人間にとって水は、もちろん命の源であるが、少し足りないだけでも健康な生活を送れなくなってしまう程重要な存在なのだ。

普段何気なく使っている水、手を伸ばせばすぐ蛇口から勢いよく出る水、これがいかにありがたいことなのか考えさせられる出来事が一月一日、能登半島で起きた。この地震で多数の水道管が損傷し、十一万戸で断水がおき、水道職員の方々の懸命な努力により、復旧工事が進められた。私の住んでいる千葉も最近地震が頻繁に起こる。もし今日、大きな災害が来たらと思うと、一刻の猶予もない気がした。今、自分ができることを、今やらないと後悔する。私は直感的にそう感じ、「南中避難所お助け隊」のボランティアに立候補した。風水害体験や地震体験を通じ、防災への基礎知識を身につけ、いざ災害が起こった時に必要なものは何で、どう対応すれば良いのかを主体的に動ける能力を身に付けたい。

また、最近サーキュラーエコノミーという言葉をよく耳にする。今後、地球温暖化による気候変動に伴い、世界的な水不足が起こることが予測されている。人は一日平均二百八十三リットルの水を使用する。水は大切な資源であり、無限にあるものではない。水は私達の生活を

豊かにしてくれる。だからこそ水の適切な循環のために、できる限りの節水はもちろん、油汚れを水に流さない、洗剤やシャンプーを最小限の使用に抑える等、自分が今できることから即行動し、水資源のサーキュラーエコノミーを継続して実践していきたい。なぜなら、一度使用した水を浄化させるには、多くの労力と時間が必要だし、巡り巡って自分達に返ってくるものだから。更に、私は循環とは異なった水の活用方法があることを春休み、大学の研究室訪問で学んだ。ここでは、二酸化炭素に水を加えると電気分解されて、次世代エネルギーである水素と合成ガスの原料の一つである一酸化炭素を造り出す新技術を研究しており、私もその工程に参加させてもらった。これは、地球温暖化の課題解決となる二酸化炭素を人工的に削減できるものであり、カーボンニュートラルの実現が可能となる。その新技術にも水が役立っている。水は人間の生命や健康維持だけでなく、産業や工業の技術開発分野、動植物に至るまで必要不可欠な、代え難いものなのだ。

水の力は偉大だ。普段当たり前すぎて私達は水の恵みに感謝の念を示すことすらしない。だが、水は人間が健康な生活を送るために真っ先に必要な存在なのだ。水の尊さを理解した今、できることを考え、行動に移し続けることが大事だ。これが将来を担う私達にできる第一歩だと思う。この行動を一人一人が責任を持って繋げていけば、限りある水は未来の私達や新技術に受け継がれ、循環し、また私達の手に透明な水がもどってくるはずだ。

四月になり、姉の体調が回復した。

「はい、白湯。」
一杯の水の大切さを知った今、母のこのおきまりの言葉も素直に受け入れられる気がした。水に目を向け、現状を知ったことで私の意識は確実に変わった。